

文化・芸術

「鳥と魚」

1968年、油彩、カンバス
215・0センチ×135・0センチ

高井貞二（1911～86年）

1930年、「メカニズムの画家」として登場した高井貞二は、飛行機や機械、ビル群といった近代の象徴を叙情的に描きました。東郷青児や中川紀元らモダニズムの画家たちからも注目を集めます。

昭和初期には、「新青年」などの雑誌で挿絵を手掛け、イラストレーターとしても活躍しました。戦中は従軍画家として中国を取材し、写真表現に新たな境地を見いだしました。54年には米国ニューヨークへ渡り、そこで出会った抽象絵画から大きな刺激を受けます。

60年代以降は、魚や鳥、チョウ、花、太陽、人などを題材に、明るい色彩とおおらかな形で生命をシンボリックに描いています。本作もその代表例の一つで、高井が「ジョリズム（幸福主義）」と呼んだ世界観をよく示しています。見る人に晴れやかな気持ちをもたらしてくれるでしょう。

（小此木）

※企画展「もこもこどもと大川びじゅつかん」展は7日（日）まで開催中。



名画の扉

大川美術館企画展
「もこもこどもと大川びじゅつかん」展
「いきもののへや」から